
魔人と少女と一般市民

rew

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔人と少女と一般市民

【Nコード】

N2421K

【作者名】

rew

【あらすじ】

N県鷹田市に住む普通の女の子と、魔人とか、妖怪とか、人間とかのお話。

1 話目（前書き）

高1の餓鬼の作品です。

アドバイス、辛口批評等お待ちしております。

1 話 目

古本屋でマコは馴染みの深い店長に声をかけた。彼女はこの店長が電話で面白そうな本が手に入ったというので足を運んだのである。

「ああ、マコちゃんか。連絡した本ならこれだ、君が気に入るだろうと思つてね。とつておいたのさ」

そう言つて店長が手渡したのは細かい金属の装飾がされた美しい革表紙の本。大きさは文庫本ほどだが、ずっしりと詰まったページのせいか少し重く、金色の鍵がかけてある。

「綺麗……」

「だろう？ 中身はノートになっている。たぶん、中世ごろの物だと思ふよ。ちなみに値段は500円」

「安過ぎない？」

「落書きが中にしてあるのだよ、6ページぐらい。あと、ノートなのだから安くて当たり前。」

「これ買つよ。気に入ったから」

「毎度ありがとうございます。はい、レシートと鍵。家に帰つてから開けるのだよ、鍵無くしたら大変だから」

「分かつてるつて」

面白そうなものを手に入れるとはしゃいでしまうマコの性格を知つてか、店長はやたらに念を押した。まったく過保護なものである。そこまで心配せずとも高校1年生なのだから自制ぐらいできるのだが。

そんな事を思いつつ、一気に坂を上つて家の前に帰つてきたマコは、

せかせかと玄関扉を開け、自分の部屋に急ぐ。

「さてと……」

本につけられた小さな錠前に鍵を差し込んでひねる。と、癖が付いていたのか勝手にページが開きぱらぱらとめくれていく。

そこに書かれていたのは逆向きの五芒星と複雑な文字で作られた魔法陣と六体の化け物のイラストだった。

「なにこれ？」

そう呟いた瞬間、魔法陣が光った。そして掌に走る激痛。

「痛っ」

痛みで思わず落としてしまった本から、黒煙と何とも言えない花のようなにおいが立ち上り、部屋の中に充満する。

「うっ、いったい何なのよ!？」

わけのわからないまま目を凝らすと、何やら煙の中から腕や足が突きだしている。

「え？」

マコの驚きの声と同時に、煙の中から6人の少年たちが出てきた。それぞれ自由な格好をしており、さらに翼や角を生やしたものもある。どう見ても人間ではない。

これは夢なのだろうか。

と、マコが思った時。彼らの中の一人、湾曲^{わんきょく}した羊の角を生やした

少年が声を駆けてきた。

「貴方が召喚者のようですね」

「あ……う……」

驚き過ぎると声は出ないものらしい。

「おやおや、一般人ですか」

「どうするんだよ、ルイ。こいつ、もう俺たちと契約しちまってるぞ。左手に印がある」

「本当ですかジャック？ そうなると…… これは少々面倒ですね」

「め、面倒って？」

「お、こいつしゃべったぞ。なかなか面白いじゃないか、多少だが見込みがあるぞ？ ルイ説明してやれ」

「……一度契約すると召喚者が契約破棄をしないかぎり、契約は消えません。しかし、貴方は魔法使いではないので呪文が唱えられない。と、言うことは死ぬまで契約を続行することになります」

「……これは夢？」

「混乱してますねえ……質問がちぐはぐだ。しかも、それはないですよ。だって夢は寝てから見るものでしょう？」

確かにそうだけど、こんなことってありえるのだろうか？ この科学の発達した現代に魔法だなんて。

「まあ、気絶しない分、やっぱり見込みあるんじゃない？」

「ですね、多少の魔力はあるようですし」

「え？」

魔力なんて自分にあるのだろうか？ 魔法も使えないし、身の回りに不思議なことも特にないのにな。

「貴方の身の回りに強い魔力を持った人がいるのでしょうか。その人に影響されたのでは？」

「だろうな。となると、高位の魔法使いか、人外かのどちらかが近くにいるんだな」

「え？」

人外？ 魔法使い？ そんなものがこの世にいるのだろうか？

「まあそれよりも気になるのは、残り四人は勝手に帰りましたが契約続行中…… 我々はどうしましょうか？ このままだとご主人様が魔力の垂れ流し過ぎで死にますよ？」

言われてみれば、6人居た筈がいつの間にか二人になっている。

「大げさだな、今の消費量だったら一カ月は大丈夫だろ。ま、俺は帰るからルイが何とかしてろ。お前が一番燃費もいいし、何より人に慣れている。適任だろ？」

「まあ、そうですね」

「じゃ、俺は帰るぜ。ルシファーさまとチェスの約束があるんだ」

「では、またこんど」

「ああ、またな」

そう言い残し、ジャックは消えた。一方残ったルイはマコに説明を始めた。

なるほど、確かに人に慣れているらしく、親切である。

「何から説明したらいいのでしょうか…… まあ、説明するより実践のほうが早いでしょう。」

「……何をすればいいの？」

「僕の手を掴んでいてください。それだけで結構です」

マコがルイの掌を掴むと、ルイの体が光りだした。

光は徐々にマコの体を包み込んで、球状に膨らんでいき、やがて消えた。

「今ので主従契約というものを結びました。かなりの魔力を使いましたから少しふらつくかもしれません…… って、危ない！」

崩れ落ちたマコをルイが素早く支える。魔力を使いすぎたことで眠ってしまったらしい。

「はぁ…… これだから人間は……」

ため息をつくと同時にルイが指を鳴らすと、二人の女魔人が現れた。ルイの直属の部下、アモンとプロケルである。

「この子を頼んだ。着替えさせてベッドに寝かせておいてくれ」

「えー、自分でやってよ。しょーぐん」

「無茶言わないで、アモン。ルイ様は半分男なんだから、気まずいのも当たり前でしょう？」

「…… へーい」

「頼んだぞ。僕はやらなくてはいけないことがある。」

「…… この少女に魔力を与えた者を探すんですね。」

「分かっているよ。では、行って来るよ。」

ルイはそういうと翼を広げ、窓から飛び出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2421k/>

魔人と少女と一般市民

2010年10月28日07時43分発行